

名古屋港のここがポイント! 11



ちっ こう 築港とろせった丸

1

今からおよそ100年前、名古屋港は水深が浅く、大きな船が入ることができない不便な港でした。

名古屋港を大きな船が入れる港にするには、どんなくろうがあったのでしょうか？



2

そこで港をつくる工事が始まりました。しかし、多くの人々が反対しました。

税金の無駄使いだ!!
反対!!



3

そこで、愛知県の土木技師であった奥田助七郎は、当時全国の港を回る“動く博覧会場”であった“ろせった丸”を名古屋港に呼んで大きな港をつくる大切さをわかってもらおうと考え、主催者におねがいしましたが、「小さな船さえ入ったことない港にろせった丸を入港させるなんてだめだ。」しかし奥田助七郎はあきらめませんでした。



奥田助七郎

4

奥田助七郎は、ろせった丸の船長に直接うったえました。船長は長年の夢であった奥田助七郎の願いを心よく聞き入れてくれたのでした。

5

明治39年(1906年)9月29日、ろせった丸は、ぶじに港に入ることができました。十数万もの人々でにぎわいました。これをきっかけに多くの人々が港づくりに賛成しました。



ろせった丸

